

国営諫早湾干拓事業の潮受け堤防
開門問題で、政府・与党の事業検討
委員会が28日、「開門調査を実施す
るのが適当」とする報告書を赤松広
隆農相に提出した。座長の郡司彰農
水副大臣が一任を取り付けてまとめ
たものだが、反対を主張していた本

インタビュー

なぜ評価できるのか。

これまで「もし開門調査を
するなら、リスクを排除できる
か次第だ」と訴え、当初そのハ
ードルは高いと思っていた。

ところが、報告書は「地元
の理解と協力が欠かせない」
と強調した上で、調査費用を
政府が持ち、防災や営農の現
状水準を確保する必要性にも
言及した。政府が開門調査と
防災・営農を両立できると確
信しているからこそ、ここでま
で踏み込んだ表現になったは

諫早湾干拓事業検討委

大久保 潔重 参院議員

地元配慮で報告書評価

県側委員の一人、大久保潔重参院議
員はこれを一定評価した。その真意
を聞いた。
(聞き手は後藤敦)

ず。「諫早大水害の惨事を繰
り返してはならない」「入植
者の夢を砕いてはならない」

とも明記し、地元配慮され
ていると感じた。
「だが開門調査や事前対策
について、具体的な内容や方
法、実施時期は示されなかつ
た。」

それらも示すべきと主張し
てきたので不満だ。環境影響

評価(アセスメント)の中で
科学的に調査し、具体化しな
ければならない。開門調査は
有明海全体で実施し、しっか
りデータを取るには通年にな
るだろう。

「地元では開門反対の声が
大きい。民主党県連も反対の
立場だ。」

今まで地元で利害が対立
しいがみ合う構図だったが、
政治主導で打開に向けた方向
性を示そうとしている。多く
の県民はこれに期待している
のではないか。そうした機運
を農相も感じたのだろう。個
人的には、特に瑞穂漁協が最
近「開門賛成」に転じたのを
強く意識した。

これ(報告書)は新たな展開
であり、県連内で理解が深まる
ようにしたい。期待に応えるに
は地道で丁寧な説明が必要だ。



報告書を読みながら「地元への配慮を感じる」と語る大久保潔重参院議員

参院議員会館